

□主な内容

【EST創発セミナーの開催が迫っています！】

交通エコモ財団、EST普及推進委員会、各地方運輸局等は、9月にEST創発セミナーを広島、那覇、北九州で開催します。席に限りがありますので、参加登録をお願いします。

【自動車単体の環境配慮化に向けたニュース/トピック】

国土交通省によるクリーンディーゼル普及推進戦略の策定、日本自動車工業会によるバイオ燃料ガイドライン案の策定、その他自動車メーカーの取組み等がありました。

□目次

1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 25 回)

●「2050 年の日本の姿」

【東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻准教授 室町泰徳】

2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第 25 回)

●「和泉市におけるESTモデル事業について」

【和泉市都市デザイン部次長 中塚 教】

3. ニュース/トピック

●クリーンディーゼル普及推進方策(クリーンディーゼル普及推進戦略 詳細版)の公表について【国土交通省】

●IC乗車券の国際相互利用に関する実験の実施について【国土交通省】

●平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集開始【経済産業省、国土交通省】

●第 5 回東京都市圏パーソントリップ調査を実施します【東京都市圏交通計画協議会、国土交通省関東地方整備局、東日本高速道路株式会社】

●WWFC(世界燃料憲章)バイオ燃料ガイドライン案【日本自動車工業会】

●八戸市地域公共交通会議構成員募集【八戸市】

●パーク&ライドのすすめを掲載しました【仙台市】

●米国加州の電力会社 2 社との電気自動車の共同実証試験について【三菱自動車】

●世界で初めてエコドライブをサポートするアクセルペダル「ECO ペダル」を開発【日産自動車】

4. イベント情報

- 中国 EST 創発セミナー ～環境にやさしく、まちを元気にする公共交通利用促進～
【2008/9/11】
- 沖縄 EST 創発セミナー ～クルマに頼り過ぎない、公共交通や自転車・徒歩などまの
どこへでも快適に移動できるまちづくりにむけて～【2008/9/22】
- 九州 EST 創発セミナー ～地球温暖化、まちづくり、環境的に持続可能な交通～
【2008/9/30】
- 第3回全日本学生対抗 チーム・マイナス6% エコドライブコンテスト【2008/9/1】
- 国際シンポジウム「脱・地球温暖化：低炭素社会の実現に向けて」【2008/9/9】
- 企業主体の新しい環境対策, 「エコ通勤」のすすめ【2008/9/11】
- ホンダの燃料電池自動車教室【2008/9/21,10/26】

5. その他

- 記事募集中！

1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 25 回)

- 「2050 年の日本の姿」

【東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻准教授 室町泰徳】
 本稿では、「環境的に持続可能な交通」における「持続可能」性について、私の心配をお話したいと思います。特に、2050 年ごろの日本の姿を想像しながら、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計(中位推計)によれば、我が国の総人口は 2005 年の 12,777 万人から、2050 年には 9,515 万人となり 26%減少します。年齢構成はさらに急激に変化し、年少(0～14 歳)人口、生産年齢(15～64 歳)人口は 2005 年の 1,759 万人、8,442 万人から、2050 年には 821 万人、4,930 万人となり、それぞれ 53%、42%減少することが予想されています。これに対し、老年(65 歳以上)人口は、2005 年の 2,576 万人から、2050 年の 3,764 万人へと、46%増加します。2005 年には生産年齢人口 1 人で高齢人口 0.3 人分を賄えばよかったものが、2050 年には高齢人口(2005 年に 20 歳以上の世代です) 0.8 人分となり、この値は一部の地域ではさらに高くなります。また、一般的に、エネルギーを投入して機械を動かせば、少ない生産年齢人口を補えると考えられます。しかし、2050 年までに 80%程度温室効果ガス排出量を削減するという昨今の議論を考えると、少なくとも化石燃料によるエネルギーを大量に投入することはできそうもありません。2050 年に生産年齢人口の中心となる世代は 2000～2020 年に生まれることとなりますが、この世代は人数が少ない上に、現在、参政権がなく、また、成人してもしばらく投票率が低いということが予想されます。この世代の意見は誰が反映するのでしょうか？このような状況は「持続可能」性からみて望ましいことでしょうか？私の心配は杞憂でしょうか？

2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第 25 回)

- 「和泉市における EST モデル事業について」

【和泉市都市デザイン部次長 中塚 教】

和泉市では、人口の増加に加えてモータリゼーション化が急激に進展し、このような“クルマ”にかかわる問題が深刻化するとともに、バス利用者の減少に伴うバスサービスの低下や市民の皆様の移動手段の確保といった課題も発生しています。このため、平成18年度から市民、事業所、学校、行政団体と交通事業者が協働して事業を進めるため「和泉市公共交通利用活性化プロジェクト」委員会を設置し公共交通の利用促進や交通環境学習など、さまざまな事業を展開しています。

平成18年度は、「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト」の推進にあたって、①市民を対象としたモビリティ・マネジメント、②転入者を対象とした公共交通利用促進コミュニケーション、③事業所及び従業員を対象としたモビリティ・マネジメント、④小学校高学年を対象とした「交通・環境学習プログラム」を実施しました。

平成19年度は、平成18年度の①・②・④の3事業に加え広報・啓発活動を実施しました。

又、平成18年12月にはESTモデル事業地区の認定を受けました。

本年度は、事業も3年目を迎え、これまでの事業を踏まえ展開していきます。

3. ニュース／トピック

●クリーンディーゼル普及推進方策(クリーンディーゼル普及推進戦略 詳細版)の公表について【国土交通省】

ガソリン車と比較して約2割程度CO₂排出量の少ないクリーンディーゼル車の普及促進策等を検討するため、国土交通省、経済産業省、環境省、北海道、日本自動車工業会、石油連盟は「クリーンディーゼルに関する懇談会」を設置し、本年6月、その基本方針となる「クリーンディーゼル普及推進戦略」を取り纏めました。今般、関係者の連携体制の下、本戦略を着実に実行するため、クリーンディーゼル車のイメージ改善のほか、導入支援、政府による率先導入、地域との連携など、クリーンディーゼルの普及に向けた具体的方策等を取りまとめた「クリーンディーゼル普及推進方策(クリーンディーゼル普及推進戦略 詳細版)」を策定しましたので、公表します。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000006.html

●IC乗車券の国際相互利用に関する実験の実施について【国土交通省】

本年3月にIC乗車券等国際相互利用促進方策検討委員会においてとりまとめられた最終報告に基づき、この度、IC乗車券の国際相互利用に関する実験を実施致します。具体的には、(株)スルッとKANSAI及び韓国のロッテカードの協力の下、日本に来られる韓国の観光客やビジネスマンを対象に、関西等の鉄道・バスを利用できる韓国のクレジットカード払いのPiTaPaカードを発行致します。これにより、韓国からの観光客等がキャッシュレスで日本の公共交通機関を利用することが可能となります。このような国際的なIC乗車券の実験

は世界初の試みであります。

http://www.mlit.go.jp/report/press/joho01_hh_000004.html

●平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集開始【経済産業省、国土交通省】

経済産業省及び国土交通省では、「グリーン物流パートナーシップ会議」において推進決定された事業の中から特に優良である事業に対して、経済産業大臣表彰、国土交通大臣表彰及び国土交通省政策統括官表彰を行う予定です。8月21日(木)より社団法人日本ロジスティクスシステム協会において優良事業の募集を開始します。優良事業の表彰につきましては、本年12月に開催予定のグリーン物流パートナーシップ会議の場において表彰式を行う予定です。

<http://www.meti.go.jp/press/20080821003/20080821003.html>

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000009.html

●第5回東京都市圏パーソントリップ調査を実施します【東京都市圏交通計画協議会、国土交通省関東地方整備局、東日本高速道路株式会社】

東京都市圏交通計画協議会では、第5回東京都市圏パーソントリップ調査を実施します。10年に1度の大規模調査です。調査結果は将来のまちづくりや交通計画などを検討するための大切な基礎資料となります。今までのパーソントリップ調査は、訪問によるアンケート調査を行っていましたが、今回は新たな調査方法として郵送配布、郵送回収またはweb回収によるアンケート方式で行います。パーソントリップ調査は、全国の主要な都市圏においても実施されていますが、東京都市圏における調査は全国でも最大規模です。また、5回目の調査を実施するのは、東京都市圏が初めてとなります。

http://www.e-nexco.co.jp/pressroom/press_release/head_office/h20/0819/

●WWFC(世界燃料憲章)バイオ燃料ガイドライン案【日本自動車工業会】

(社)日本自動車工業会は、このたび米国自工会(AAM)、欧州自工会(ACEA)および米国エンジン工業会(EMA)と共同でWWFCバイオ燃料ガイドライン案を作成しました。このガイドライン案は、ガソリンに10%まで混合するためのエタノールと、軽油に5%まで混合するためのFAME:脂肪酸メチルエステルの推奨規格案を定めたものです。

http://www.jama.or.jp/eco/wwfc/wwfc_01.html

●八戸市地域公共交通会議構成員募集【八戸市】

地域の実情に応じた乗合輸送サービスに関する事項や、路線バス等の地域公共交通の活性化について協議を行う、八戸市地域公共交通会議(会長 八戸工業大学武山泰教授)では、このたび、地域公共交通利用者からも広く意見を取り入れるため、構成員の一部を公募します。

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,16137,73,239.html>

●パーク&ライドのすすめを掲載しました【仙台市】

仙台市では、交通渋滞・環境問題・公共交通の利用促進について、商業者・交通事業者や近隣自治体と一緒に取り組んでいます。その中でパーク&ライドの情報を随時、提供・更新し、ラッシュアワー時に市内中心部へ向かう道路の混雑を緩和すると共に、地球環境にやさしい交通を目指しています。

<http://www.city.sendai.jp/toshi/koutsukikaku/parkride/index.html>

●米国加州の電力会社 2 社との電気自動車の共同実証試験について【三菱自動車】

三菱自動車は、米国の電力会社 Pacific Gas and Electric Company 社及び、Southern California Edison 社の 2 社それぞれと、電気自動車の実証走行試験を共同で実施する事について検討を開始しました。本年 10 月以降、米国での同試験に向け、今後両社とそれぞれ詳細を詰めていくこととなります。

<http://www.mitsubishi-motors.co.jp/publish/mmc/pressrelease/news/detail1814.html>

●世界で初めてエコドライブをサポートするアクセルペダル「ECO ペダル」を開発【日産自動車】

日産自動車株式会社は、ドライバーのアクセルペダル踏み込み時に足裏に伝わる力（反力）を変化させることにより燃費のよい運転ができるようにドライバーをサポートする「ECO（エコ）ペダル」を開発しました。燃費状況を表示装置などでドライバーに知らせるだけでなく、アクセルペダルの反力を使ってエコドライブをサポートするシステムは世界初となります。この「ECO ペダル」は 2009 年度に発売する新型車より採用を開始する予定です。

http://www.nissan-global.com/JP/NEWS/2008/_STORY/080804-02-j.html

4. イベント情報

●中国 EST 創発セミナー ～環境にやさしく、まちを元気にする公共交通利用促進～

日時：2008 年 9 月 11 日（木） 13:30～16:30

場所：メルパルク広島6階「平成3」

主催：交通エコロジー・モビリティ財団、EST普及推進委員会、中国運輸局

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu4.html>

●沖縄 EST創発セミナー ～クルマに頼り過ぎない、公共交通や自転車・徒歩などまちのどこへでも快適に移動できるまちづくりにむけて～

日時：2008 年 9 月 22 日（月） 13:30～16:55

場所: 那覇市ぶんかテンブス館4階「テンブスホール」

主催: 交通エコロジー・モビリティ財団、EST普及推進委員会、内閣府沖縄総合事務局、那覇市

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu5.html>

●九州 EST創発セミナー ～地球温暖化、まちづくり、環境的に持続可能な交通～

日時: 2008年9月30日(火) 13:30～16:30

場所: 北九州国際会議場2階「国際会議室」

主催: 交通エコロジー・モビリティ財団、EST普及推進委員会、九州運輸局

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu6.html>

●第3回全日本学生対抗 チーム・マイナス6% エコドライブコンテスト

日時: 2008年9月1日(月) 7:00～17:00

会場: 鈴鹿サーキット国際レーシングコース及び交通教育センター

主催: 全日本学生自動車連盟

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=10079>

●国際シンポジウム「脱・地球温暖化: 低炭素社会の実現に向けて」

日時: 2008年9月9日(火) 13:00～17:00(受付 12:00～)

会場: 大阪国際交流センター 大ホール

主催: (財)地球環境センター、UNEP DTIE 国際環境技術センター(IETC)

<http://gec.jp/gec/gec.nsf/jp/Activities-Dissemination-GECsympo2008>

●企業主体の新しい環境対策 「エコ通勤」のすすめ

日時: 2008年9月11日(木) 12:45～14:30(受付 12:00～)

会場: 仙台市役所本庁舎8階ホール(青葉区国分町 3-7-1)

主催: 仙台市

<http://www.city.sendai.jp/toshi/koutsukikaku/riyou/mm-koen.html>

●ホンダの燃料電池自動車教室

日時: 2008年9月21日(日)、10月26日(日)

会場: ウェルカムプラザ青山

主催: 本田技研工業

<http://www.honda.co.jp/FCX/experience/>

5. その他

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。EST、または「交通と環境」に関連する取り組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

→ E-mail:EST@ecomoto.or.jp (担当:市丸)

=====

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

http://www.estfukyu.jp/mailmagazine_cancel_form.html

EST ポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>